

# これからの品質管理と品質管理学会の課題

～TQMの推進による「価値創造経営」の基盤づくり～

2020年11月28日 (土) 11:10～11:50

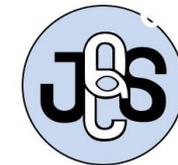
トヨタ自動車株式会社  
元専務取締役 二橋 岩雄

1. はじめに
2. 日本を支える産業構造 50年の振り返り
3. 品質管理学会20年（30期—49期）の歩みと課題
4. TQMの意義
5. 品質管理学会の今後の方向性について
6. おわりに

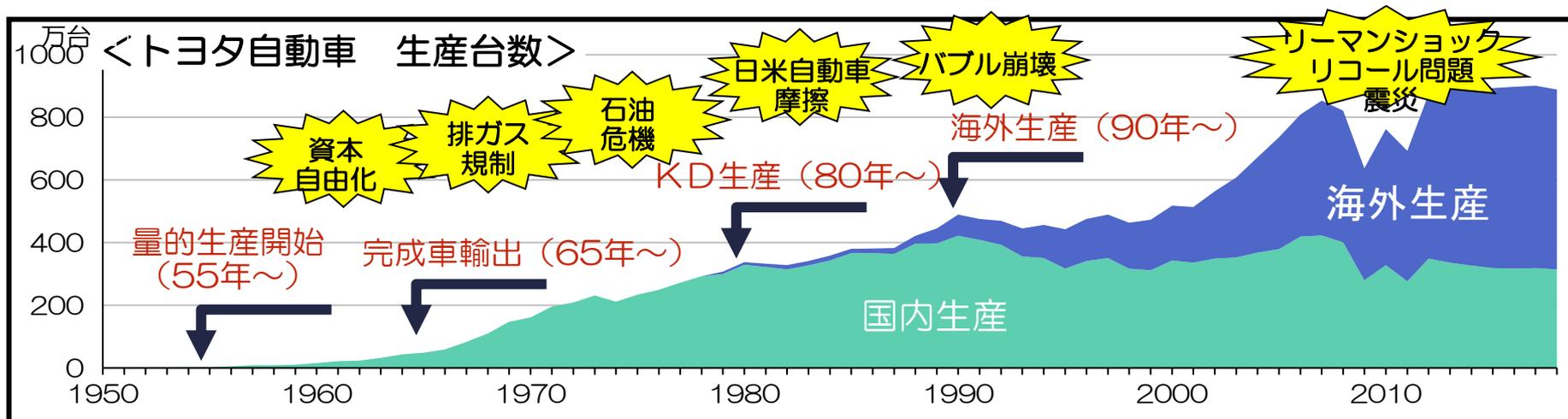


# 1. はじめに

# 1. はじめに<自己紹介>



## トヨタと私50年～成長と危機を回顧し思うこと



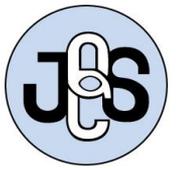
### <車づくりに関わり、多くを学び感謝>

- ①製造現場との広い関わりを通して学ぶ
- ②海外生準・海外支援
- ③品質保証・TQMの世界を知る→品質保証・サービス・TQM担当・QCC中部支部長
- ④トヨタ九州への赴任→品質経営の実践-TQM活動強化・九経連副会長・福岡南RC

資料提供：トヨタ自動車株式会社

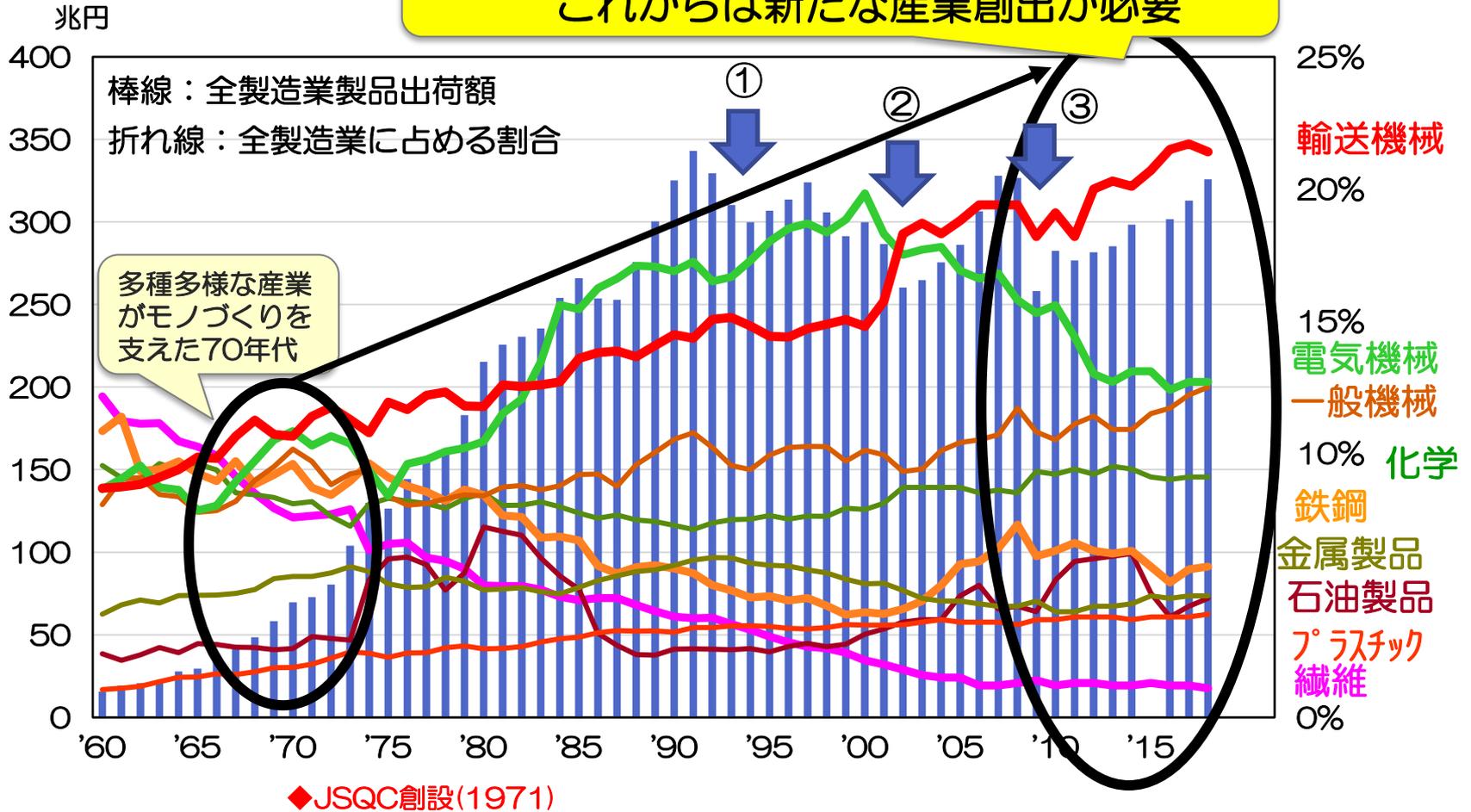
## 2. 日本を支える産業構造 50年の振り返り

# 2. 日本を支える産業構造 50年の振り返り



## 日本を支える産業構造の変化（製品出荷額の推移）

輸送機械（自動車）が日本の成長を牽引  
これからは新たな産業創出が必要



出典：経済産業省 工業統計調査より

Copyright JSQC all rights reserved

## 2. 日本を支える産業構造 50年の振り返り



### 1人当たりのGDPと労働生産性の国際比較

日本の労働生産性・国際競争力の再興  
⇒新たな価値の創出

1人当たりGDP		
国名	順位	金額(\$)
米国	5	62,853
ドイツ	11	53,749
カナダ	14	48,107
英国	16	45,505
フランス	17	45,149
日本	18	42,823
イタリア	19	41,837

労働生産性(就業者1人当たり)		
国名	順位	金額(\$)
米国	3	132,127
フランス	8	111,988
イタリア	11	108,890
ドイツ	13	106,315
カナダ	18	95,553
英国	19	93,482
日本	21	81,258

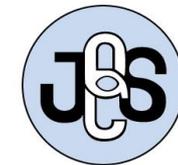
$$*労働生産性 = \frac{GDP}{就業者数}$$

OECD加盟諸国 36カ国比較より (2018年)

出典：公益財団法人 日本生産性本部「労働生産性の国際比較2018年度」

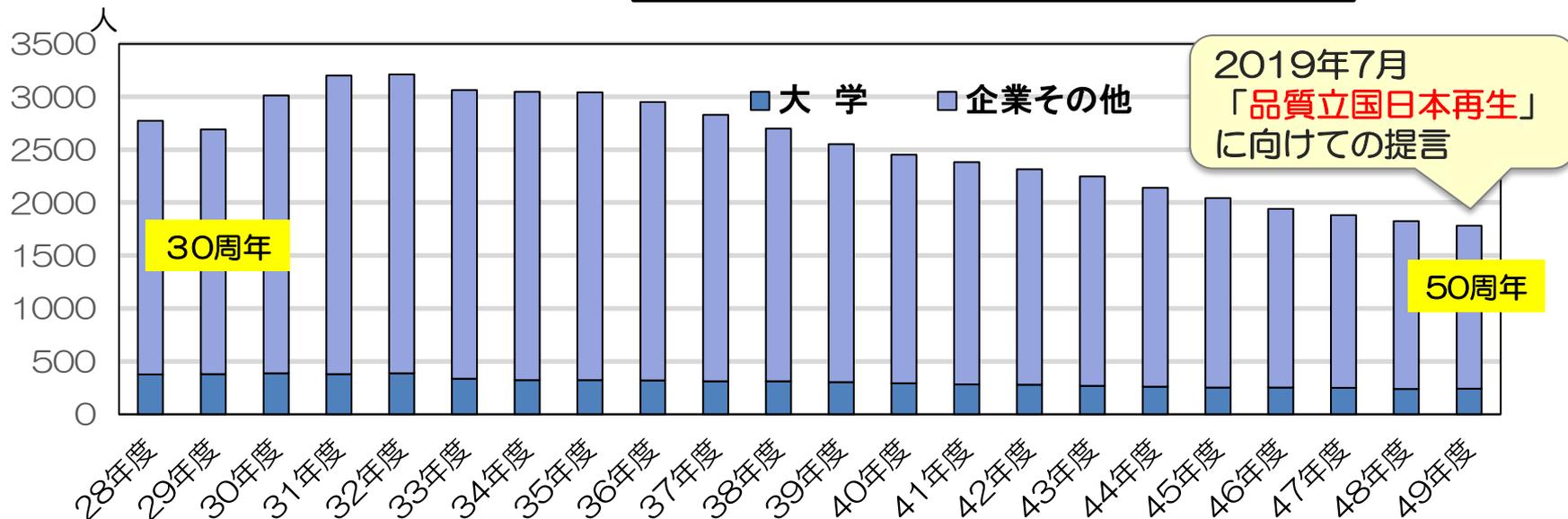
# 3. 品質管理学会 20年の歩みと課題

# 3. 品質管理学会20年の歩みと課題



## 正会員産学別会員数推移

減少傾向に歯止めをかけたい



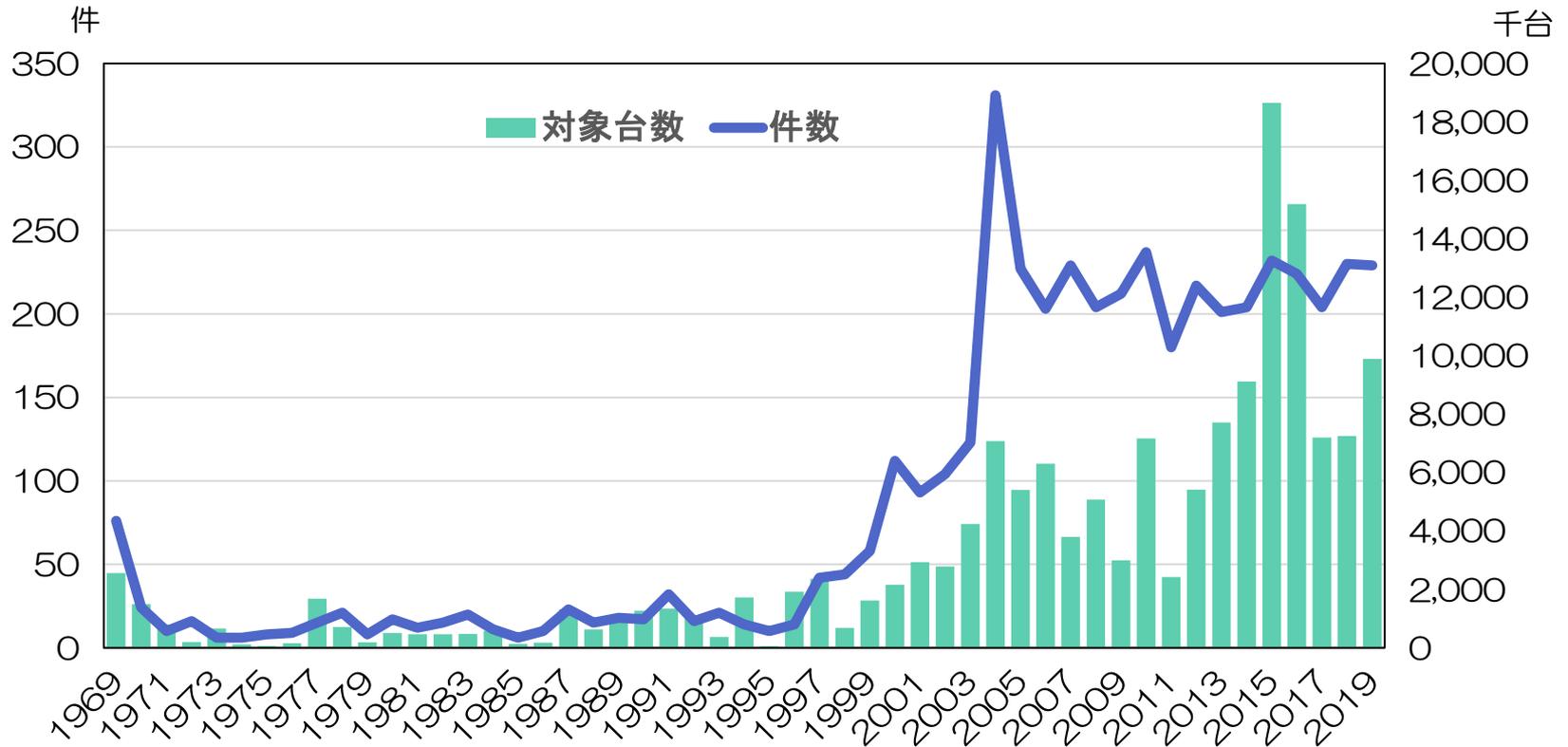
JSQC年度	29-31	32-34	35-37	38-40	41-43	44-46	47-49	50-52
期間 (年)	'99-'01	'02-'04	'05-'07	'08-'10	'11-'13	'14-'16	'17-'19	'20-'23
品質管理学会 主な取組み	品質危機克服	Q-Japan! —品質立国 日本再生 への道—	「Qの確保」 「Qの展開」 「Qの創造」 を核とした 3年間の 中期計画	TQEの 推進	震災復興 (安全 安心) への貢献	「真価」 「深化」 「新化」 「進化」 という4つの SHINKA活動	中長期 計画 QSHIN 2020	新たな 中期計画

### 3. 品質管理学会20年の歩みと課題



自動車（国産車）のリコール届出件数・対象台数の推移

高止まりで一向に下がらず



出典：国土交通省「各年度のリコール届出件数・対象台数」をベースに編集

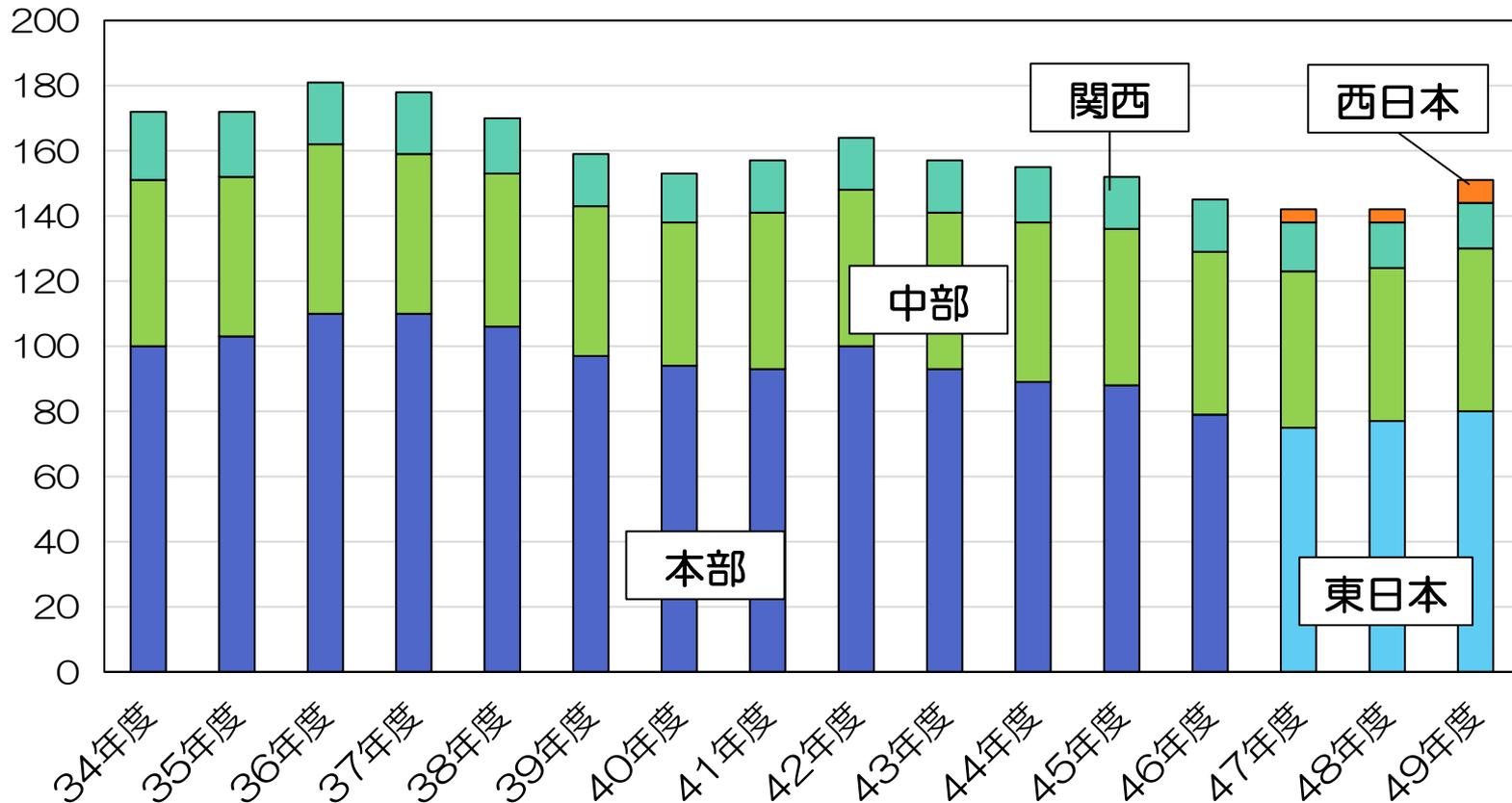
# 3. 品質管理学会20年の歩みと課題



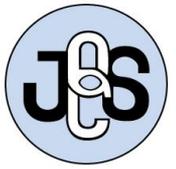
## 賛助会員数 支部別推移

各支部賛助会員の増強を

組織数

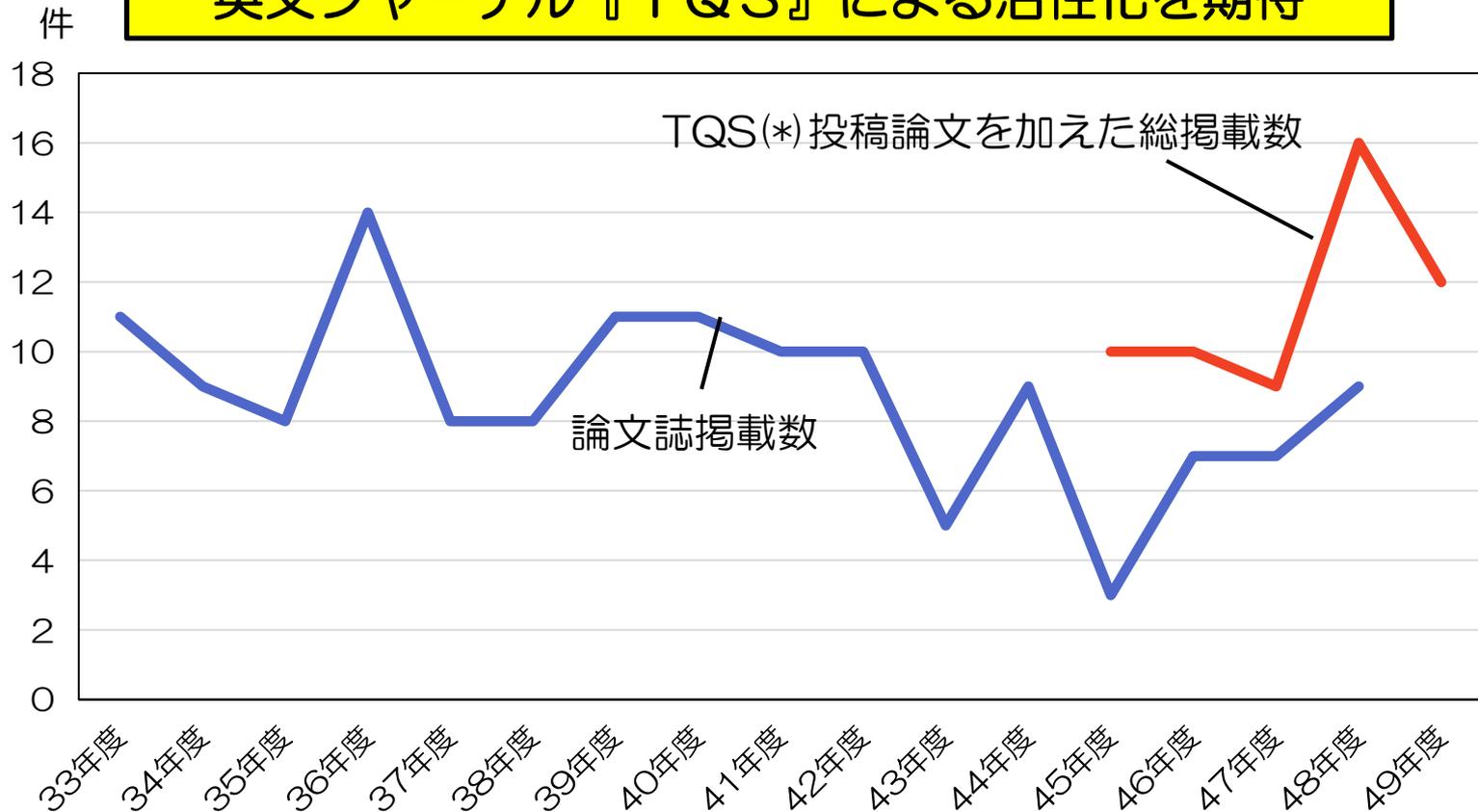


### 3. 品質管理学会20年の歩みと課題



#### 学術論文数の推移

英文ジャーナル『TQS』による活性化を期待



(\*)TQS：JSQCが発行する英文電子ジャーナル『Total Quality Science』の略

JSQCが果たした役割

1971年：創設

2021年：創設50周年

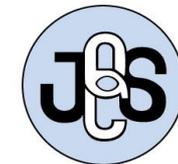
この間、TQM（TQC）の  
考え方の普及と実践の支援



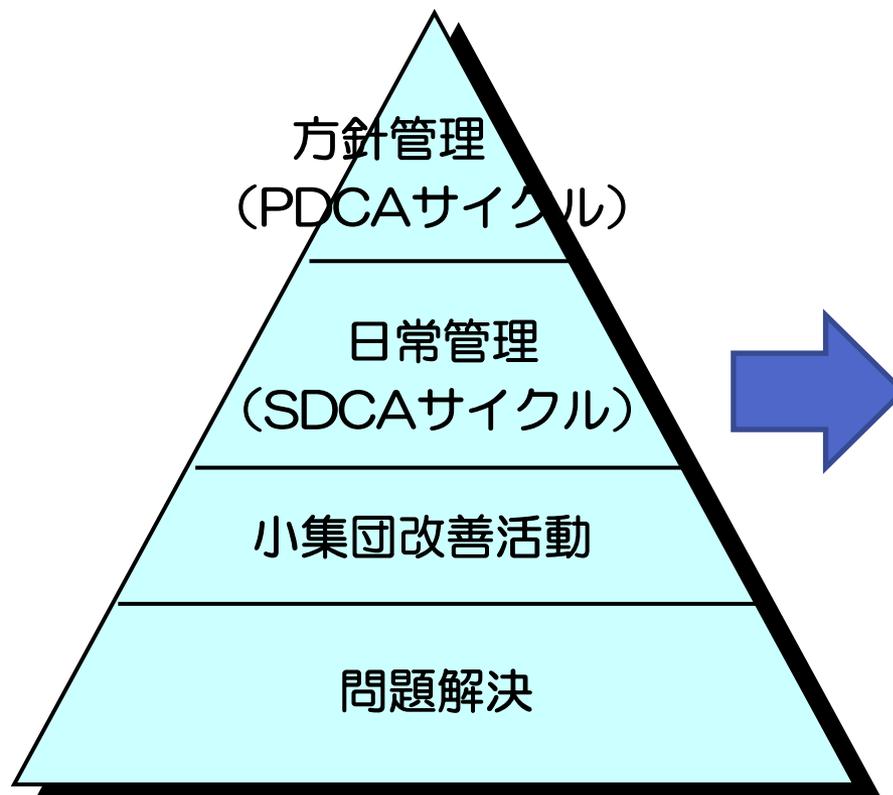
日本の発展に多大な貢献

## 4. TQMの意義

## 4. TQMの意義



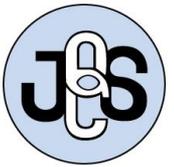
TQM (Total Quality Management) = 経営の道具



人と組織の活力向上  
仕事の質の向上  
\* 価値創造  
\* 質保証・効率化

TQMの活動体系

# 4. TQMの意義



## トヨタグループ TQMの取り組み

年代	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2015
フェーズ	QC活動のはじまり		TQCの導入とデミング賞		新生トヨタとTQCの広がり		TQCからTQMへ	全員参加 相互啓発の拡大	
トヨタグループ TQC・TQM の大きな出来事	各社ごとにSQC、QCサークル、創意くふう、TQCを導入		◆JSQC創設('71) グループ10社がデミング賞受賞		◆トヨタ自動車デミング賞受賞、 8社QC連絡会発足('65) ◆SQC研修会、 職種別QCサークル交流会('67)		◆TQC→TQMへ改名('95) ◆SQC・QCC各分科会('95)	トヨタ自動車九州、トヨタホームがデミング賞受賞	◆MAST導入('00) ◆自工程完結('07)
オールトヨタ TQM大会の流れ	第1回オールトヨタ品質管理大会 (織機、デンソーなど8社) (1966)		トヨタ主体からグループ共催へ 会場変更し参加人数をアップ (700→2000人) (1997)		豊田通商、トヨタホーム、トヨタ自動車九州 事例発表参画 全16社(2012)		第50回記念大会 (2015)		
<div style="background-color: yellow; padding: 5px; border: 1px solid black; display: inline-block;">                     50年にわたりグループTQMの最大の啓発行事として開催                 </div>									
<div style="text-align: center;"> <p>第50回記念大会 事例発表件数</p> <p>マネジメント, 23   事務管理, 31   開発設計, 25   生技製造, 30</p> <p>104件</p> </div>									
資料提供：トヨタ自動車株式会社									

# 3. TQMの意義



## 第50回記念オールトヨタTQM大会の開催風景



名古屋国際会議場に約4,300人が参集



ステージ上でトップ役員が本音の座談会



事例発表にも多くの聴講参加



ブース形式で事例共有・意見交換

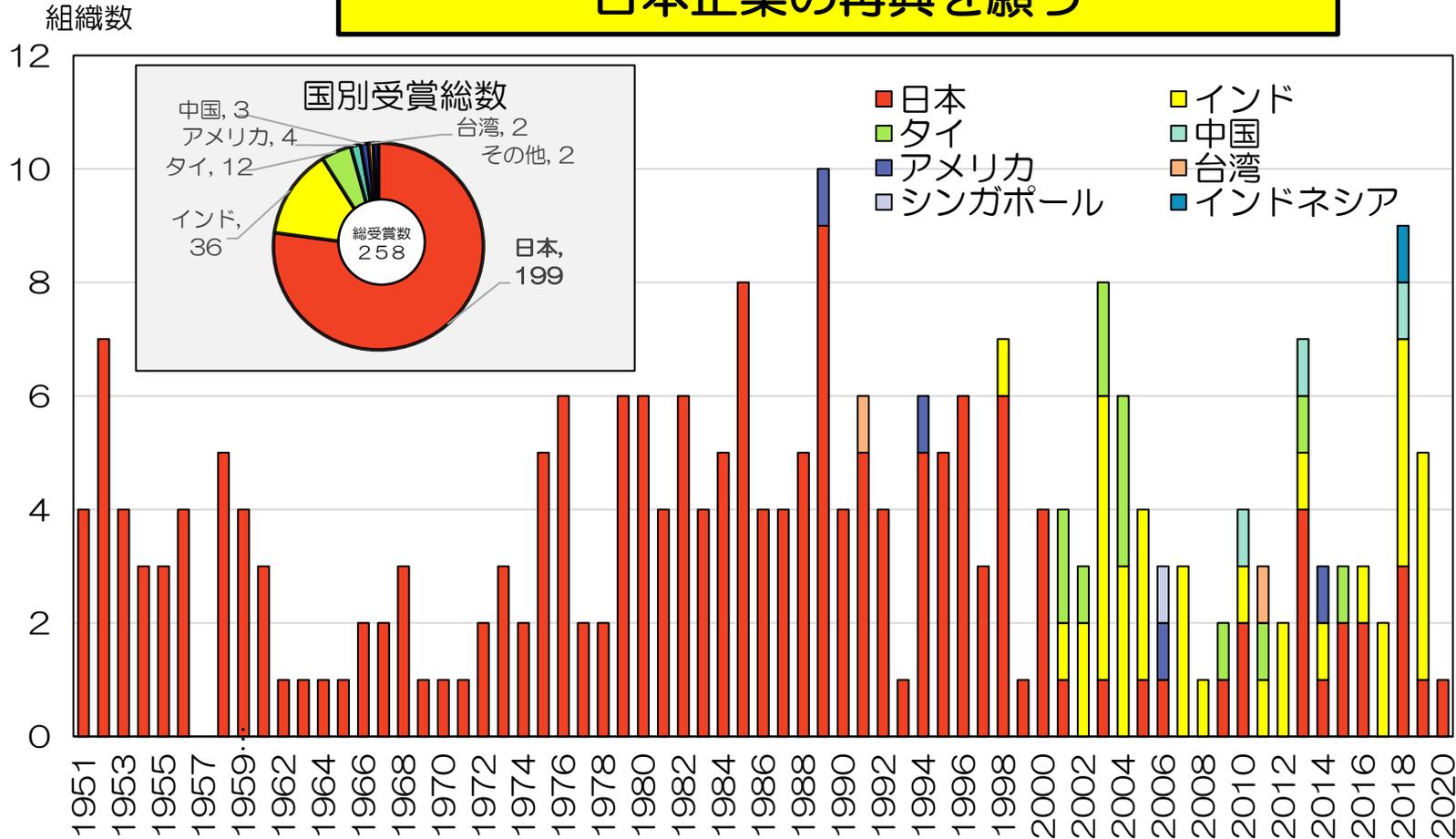
資料提供：トヨタ自動車株式会社

# 4. TQMの意義



## デミング賞受賞組織数 年毎の推移

日本企業の再興を願う



出典：一般財団法人 日本科学技術連盟「デミング賞 受賞者リスト」をベースに編集

# 5. 品質管理学会の 今後の方向性について

### 品質管理学会を取り巻く環境が大きく変化

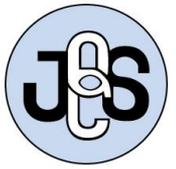
- 産業構造の変化：モノづくりからコトづくり, etc.
- 技術の進展：IoT, AI, 5G, DX etc.
- 価値観の変化：安全安心、SDGs

新たな50年に向けて、  
品質管理学会が世の中から必要とされる  
存在であり続けるために



今後の取組みの方向性検討

## 5. 品質管理学会の今後の方向性について



- 中計検討WG（2020年9月発足）

⇒ JSQCのミッション、ビジョン案の作成  
JSQCの3カ年計画案の作成  
今後、新体制の元、正式に決定し、  
2021年5月の発表を目指して活動。

（敬称略）

リーダー

二橋 岩雄（トヨタ自動車（株））

サブリーダー

永田 靖（早稲田大学）

メンバー

佐野 雅隆（千葉工業大学）

（50音順）

鈴木 知道（東京理科大学）

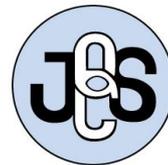
鈴木 直人（日野自動車（株））

新倉 健一（前田建設工業（株））

古谷 健夫（（株）クオリティ・クリエイション）

山田 秀（慶応義塾大学）

# 5. 品質管理学会の今後の方向性について



## ■ ミッション（原点となる存在意義）

日本品質管理学会（JSQC）は、**会員相互の絶え間ない研鑽・学び**をとおして、**製品・サービスの質、仕事の質、生活の質**などあらゆるQuality（質）向上に役立つ**技術・手法を研究・開発**し、その成果をすべての分野に普及させることによって**人と組織、社会の幸福に貢献**します。

## ■ ビジョン（目指すゴール）

日本品質管理学会（JSQC）は、以下に掲げる「**Q（質）による3つの貢献**」をとおして豊かでサステナブルな日本を創り上げ、**我が国の生産性・国際競争力を再び世界トップに押し上げるとともに、その成果を以って国際社会の発展に貢献**することを目指します。

### Qの確保：財産である「**ニッポンの品質管理**」の更なる磨き上げ

科学的方法論による品質管理の活用確立、品質保証への産学連携強化、信頼性・安全性の一層の追究 等

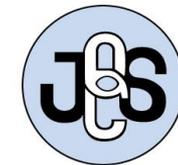
### Qの展開：培った財産を「**新分野、新応用**」に展開

サービス業・農業・行政等々の新たな分野に向けた応用手法の開発 等

### Qの創造：過去の延長上ではない「**Qの新天地**」を創造

デジタル化社会、更にアフターデジタルに向けた科学的方法論の創造、持続可能社会実現に貢献する新発想のQの創造 等

# 5. 品質管理学会の今後の方向性について



## ■ 重点取り組み

題課 ⇒ 対策の方向性	重点実施事項（具体的な施策）
<p>会員数の増加</p> <p>⇒ A) 会員・賛助会員にとって 魅力ある学会づくり (新会員の入会促進)</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 「学理の追究と社会実装」を実践するための機会(場)の提供</li><li>2. 学会誌の変革による学理の追究の促進 (他学会からの研究参画 など)</li><li>3. 賛助会員の役に立つ情報提供の推進 (JSQC規格・選書, 小冊子など)</li></ol>
<p>「品質管理」「問題解決」の内容を 世の中に幅広く訴求 (製品品質, 安全, コンプライアンスなど の不祥事の再発防止)</p> <p>⇒ B) 品質管理の正しい理解と普及の 促進による, 安心して豊かな社会の 実現への貢献</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 全国の商工会, 銀行などとの連携による, 品質管理啓発活動の推進 (50期はキャラバン隊活動として展開)</li><li>2. 支部活動の強化 (運営体制強化, 賛助会員数 等)</li><li>3. 問題解決 (PDCA, SDCA) の 初等中等高等教育への導入促進</li><li>4. JAQ (Japan Association for Quality) 設立に向けた取組みの推進</li><li>5. 国際化の推進</li></ol>
<p>情報発信の充実</p> <p>⇒ C) 新ホームページの充実・運用改善</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 新HP活用による情報発信の充実</li><li>2. 新HP活用による事務作業の効率化</li></ol>

## 6. おわりに

本日までご参加の皆さまへのごお願い

1. 3ヶ年中計案に掲げた項目（WG）への積極的な参画  
（特に代議員）

\*後日、WGへの参画募集を予定

2. 50周年記念シンポジウム（詳細は別途）への参加

- ・テーマ：『**激動する時代に飛躍する  
未来志向の品質経営**』
- ・日時：2021年5月28日（金）
- ・場所：早稲田大学大隈記念講堂



ご清聴ありがとうございました